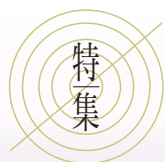


Vascular Street Journal

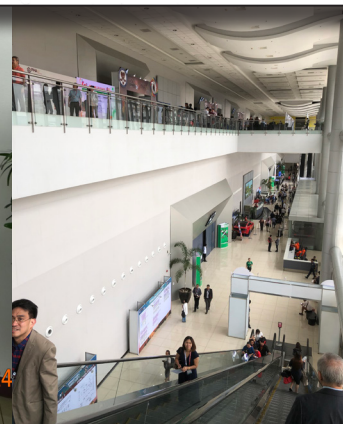
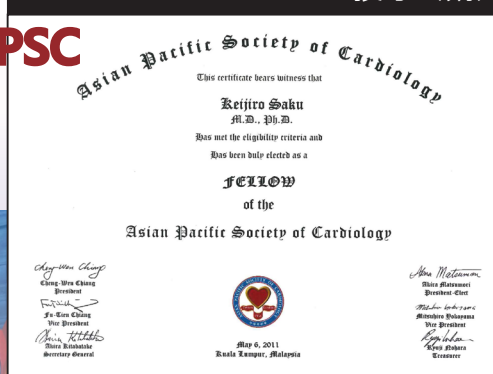


2019 アジア太平洋心臓病学会 APSC 第 50 回 フィリピン心臓病学会

マニラ、フィリピン 2019 年 5 月 22 日～ 26 日



2011 年 5 月 APSC フェロー授与 (朔)



はじめに (朔)

私は以前、アジア太平洋心臓病学会 (APSC) のボードメンバーをしていました。本会はタイ、インドネシア、フィリピン、北京などで、持ち回りで開催されます。今回は、第 50 回フィリピン心臓病学会とのジョイントでしたが、来年の APSC2020 は、日本循環器学会と同時開催となり、来年 3 月京都で予定されています。APSC は最近、日本循環器学会の正式な単位認定学会となりました。今回の APSC のテーマは、「多様性の結束 (Unity in Diversity)」でしたが、これはマニラにぴったりのテーマでした。そして、各セッションのタイトルが、英語と日本語の表記の違いがあるかもしれませんが、大変意味深いものがありましたので、そのいくつかを紹介します。私たちも、このようなテーマで学会をやるべきだと思います。

トピック1. Sweet-Heart Talk

タイトルが面白いですね。糖尿病患者は高血糖ではなく、心血管病で人生の最後を迎えますので、糖尿病は冠動脈疾患リスク相等 (coronary heart disease risk equivalent) と言われている理由があります。糖尿病のチーム医療はまさに私たちが現在行っており、合併症の軽減に努力していますが、ここでも多くのディスカッションがなされました。Sweet には、甘いとか、素敵とか、かわいいとか、様々な意味があるのですが、ここでは血糖が高いという事と、甘い話をかけて Sweet-Heart Talk となっています。

トピック2. Blades (メス) 対 Neddles (針)

私たちもよく行うディスカッションですが、心臓病患者さんにおいて、最大限の治療を行う時に外科的治療をどこまで望むか？確かに外科手術は様々なインターベンション治療法の確立によって少なくなってきたのは事実です。針、つまりカテーテル治療の方が簡便になってきました。虚血3枝病変に対して PCI か CABG (デバース術) を選択するか？大動脈狭窄に対して外科手術もしくは経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI) を行うか？いつものディスカッションが盛り上がりましたが、後10年はこの論争が継続すると考えます。

トピック3. All about Eve, The Red Day のセッション等
ここでいう Eve ですが、アダムとイブのイブ(エバ)のことですが、外国ではこのように使いますね (all about Eve)。男性は火星から、女性は金星から生まれたともいわれます。女性の心臓は男性のそれと違うと以前から指摘されていますが、まだまだ不明な部分がたくさんあります。女性は、生理があるとき、出産時、閉経後、人生において様々なイベントにさらされるのです。アメリカ心臓学会 (AHA) では、「Go to RED」で盛り上がりますが、APSC の「The Red Day」のセッションでは、女性は赤い服を着て、男性は赤のネクタイで来てくださいと書いてあります。女性の心臓は十分なケアが必要ですね。

トピック4. Back to the Future

Back to the Future はかなり流行った映画で、マイケル J. フォックス(マーティ)とクリストファー・ロイド(ドク)が主演していた映画です。過去に遡って様々な体験やアクションをおこす、つまり、自動車型タイムマシンで1985年から1955年へ時空移動した高校生が、自分と同世代だったころの両親と出会うなどして騒動を巻き起こすのですが、また未来に戻ってくるのです。ドクが、「君の未来はまだ決まってないということ。誰のでもそうだ。未来は自分で切り開くものなんだよ。だから頑張るんだ。」とのセリフがグッときます。心臓病のデバイスの世界はまさにそうで、将来こうなっている可能性を含めて、様々なトークがなされました。リードレスのペースメーカー、着衣型の除細動器、handheld (携帯型)除細動器など、患者さんは過去にいただけではないので、将来構想を含めた話がためになりました。

トピック5. Born to be Alive

以前、先天性の心疾患 (structured heart disease) は、不治の病の範疇に入りましたが、手術のストラテジーも変化してきたし、その後の心臓リハビリテーションもエビデンスが出るようになりました。生下時からの障害は、成人になってもキャリーオーバーしていきませんが、最近ではうまくケアできるようになったのです。このセッションは Born to be Alive、つまり、「生きるのが当然」と訳した方がいいでしょうか。

トピック6. Sneakers Friday

フィリピンの心臓協会は、2017年11月より Sneakers Friday キャンペーンを行っています。歩いて動くキャンペーンですが、医師自らがそのロールモデルになる事だそうです。当然、土曜日、日曜日にフォーマルな靴を履く必要がない時にスニーカーを薦めているのです。標語に、「52100運動」もあります。フィリピン全体が、毎日5種のフルーツと野菜をとって、2時間以下のTV鑑賞、1時間の強めの運動、砂糖ゼロドリンク、ゼロ喫煙です。軽い恰好をして、1分間に100の階段を上る、エレベーターを用いずに階段を用いて駐車場まで歩く、そうすると心血管病を軽減することが出来ます。心臓病はライフスタイル誘発性疾患ですので、国民全体で努力する運動が紹介されました。

トピック7. No Rhythm, No Rhyme

心房細動の治療法のセッションでした。すべてにおいて、リズムが正確でないと意味をなしませんね。心電図を学生に読ませるとき、「リズムは？」と最初に言わせますが、リズムがわかれば心電図が読めます。洞調律であるかどうかが重要ですね。

トピック8. New Age Heroes: Cardio Oncology

人は年をとると心臓病になりやすくなりますが、癌もでてきますね。この二つの疾患の合併は、最近のトピックです。一般に抗がん剤は心毒性があるので、両者が合併した時は特に注意が必要です。ボロボロの心臓を battered heart といったりしますが、癌と心臓病が合併すると、ボロボロになりやすいのです。最近では Cardio-Onco TEAM と言って、心臓病と癌はチーム医療が要求され学会でも取り上げられるようになりました。New Age Heroes と呼ばれる所以です。

トピック9. Killing Me Softly

サルコペニアが巷でかなりの話題になってますが、外国でもそうです。しかし、サルコペニアや栄養不足が、心不全や外科手術後の患者では問題になるのです。特に老人においては大きな問題で、さらに心不全が悪化します。Killing Me Softly は、この病態を表現する意味深いタイトルです。



さて、フィリピンの名物料理を紹介します。フィリピン料理の特徴として酸味、甘味、塩味が効いた味付けが多く、辛い料理はほとんどありません。フィリピンはスペインに統治されていた歴史があり、スペイン食文化の影響を受けているそうですので、スペイン料理屋にも行ってきました。明らかに、スペインとは違いますが、それによく似た料理が多いと感じました。スペインで有名な子豚の丸焼きなどもメニューにありました。

「カレカレ (Kare-kare)」

牛肉といんげん、ナスなどの野菜をピーナッツソースで煮込んだ料理です。これは結構辛かったのですが、本来、辛い料理ではありません。



「シズリン」

にんにく、醤油、ビネガー、唐辛子使って細かく切った豚肉を鉄板で炒めた日本人に人気の高い料理です。豚肉の上には生たまごと輪切りの青ネギが乗っていて、見た目にも食欲をそそります。



「ハロハロ」

ハロハロはタガログ語で「ごちゃまぜ」を意味しています。縦長のグラスの中に入れたかき氷の上にフルーツ、紫芋のアイス、ゼリー、コーンフレーク、ナタデココ、タピオカをふんだんに乗せるデザートです。台湾のタピオカミルクと同じようなものですが、南の国はこのようなデザートが多いですね。





「ルンピア」

スティック状の形をしたフィリピンの揚げ春巻きです。
甘酸っぱいソースで楽しめます。

「ワイルドフラワー・カフェ」

朝食を食べたレストランです。
焼きたてパンのお店です。
これはお勧めです。



Prof. Saku's Commentary

フィリピンのマニラ、大変ディープな街です。交通もすごく混雑して、日本人からすると無茶苦茶な運転です。タクシーで移動してもとにかく安い、30分乗っても200～円ですね。街並みですが、高層ビルもありますが、ちょっと裏道に入るとかなりヤバイ雰囲気です。ジープニーという乗り合いバス(トラック)が沢山行き来していました。3kmで約7～8円。とても乗れる雰囲気ではありませんが、アジアの真ただ中といった感じです。タイやインドネシアより、ごみごみして、混雑していて、本チャンのアジアを感じれる所です。